平成２９年度　事業報告書

社会福祉法人　ＮＨＫ厚生文化事業団

ＮＨＫ厚生文化事業団　平成２９年度事業報告

時代とともに変化し多様化する福祉への新たなニーズに応えるため、事業団は、「発達障害」や「“ひきこもり”からの回復」「里親・特別養子縁組」「摂食障害」などをテーマにフォーラムを開きました。認知症については、フォーラムのほかに「認知症にやさしいまち大賞」という募集事業を新設。間近に迫る認知症７００万人時代への取り組みを支援しました。
また、「インクルーシブ防災」をテーマに住民参加型のイベントを実施し、障害者や高齢者も漏れなく災害から守るためになすべきことを考えました。
障害者への理解を促進するイベントに力を入れました。パラリンピック選手を小学校に派遣して子どもたちと交流するイベントを継続したほか、２０２０年のパラリンピック東京大会の会場となる千葉でパラリンピック選手らを集め、東京大会への課題を話し合いました。
最新の福祉情報を必要な人に届けるため、ＮＨＫ福祉番組などを貸し出す「福祉ビデオライブラリー」を継続して実施。事業団が独自にＤＶＤ教材を制作する事業も継続し、共にたくさんの方が活用しました。
また、改正社会福祉法の施行に伴う、財務規律の厳格化やガバナンスの強化、組織運営の透明化に合わせ、２０２０年までの中期経営計画を策定し、この中で３年間の収支見通しや事業方針を示しました。
東日本大震災の被災地を支援する取り組みも行いました。その中心の「わかば基金」では、基金の中に東日本大震災復興支援部門を設け、現地の福祉活動を資金面から後押しする事業を継続しました。
このようにＮＨＫ厚生文化事業団は２９年度、ＮＨＫの放送と連携し多様な福祉事業を実施しました。

○最新の福祉課題に正面から取り組み、理解促進と支援を促す

ＤＶＤ教材「“ひきこもり”からの回復」の一部を盛り込み当事者への理解と支援についてフォーラムを実施したほか、「発達障害」や「摂食障害」「インクルーシブ防災」のフォーラムを行い、多様な福祉情報を提供しました。認知症については全国７か所でのフォーラムに加え、「認知症にやさしい」全国各地の取り組みを選考して表彰する事業を行い、共生社会に向けての活動を後押ししました。

○事業団ならではの募集事業や公開イベントを放送と連携して行い、多様なスタイルで福祉情報を発信していく

「障害福祉賞」「銀の雫文芸賞」「めざせ！いきいき長寿」を継続して番組と連動して実施し、高齢者・障害者福祉に資する情報を発信しました。

○パラリンピック関連イベントを番組連動で実施

「パラリンピアンがやってきた！子どもたちの交流教室」に加え、２０２０年大会の競技会場となる千葉で番組連動イベントを実施し、障害者への理解促進に努めました。

○きめ細かい福祉情報の提供

「福祉ビデオライブラリー」では、「“ひきこもり”からの回復」「発達障害」「うつ病」など、事業団制作教材の貸出数が増加しました。またホームページやフェイスブックでイベントの内容をわかりやすく掲載し、参加できなかった人たちへ情報を届けることにも努めました。

○東日本大震災の復興支援をはじめとし、全国の小さな福祉現場を応援していく

「わかば基金」による被災地支援や、被災地の福祉施設の「製品販売会」などを行い、

東日本大震災の被災者や復興のために活動するグループへの支援に力を注ぎました。

○ＮＨＫグループの一員としてすべての役職員の行動において、リスクマネジメントを推進し、コンプライアンスを徹底する

社会福祉法の改正に適切に対応するとともに、ＮＨＫと連携してガバナンスの強化に努めました。

目　　次

１．障害者福祉事業 …… ２

２．高齢者福祉事業 …… ８

３．東日本大震災復興支援事業 …… １１

４．福祉情報の提供事業 …… １１

５．チャリティー事業 …… １４

６．その他の支援事業 …… １５

７．広報活動 …… １９

８．リスクマネジメントとコンプライアンス …… ２０

９．後援・協賛した事業 …… ２１

１０．寄付金 …… ２２

１１．賛助会員・維持会員等…… ２３

１２．役員 …… ２５

〈 資 料 〉 ・事業概要一覧

１．障 害 者 福 祉 事 業

（１）こどもの発達相談会および療育キャンプ

○こどもの発達相談会

大阪、名古屋、福岡において、ことばや発達の遅れた子どもとその親の相談会を１４回実施した。知的や言語の発達のおくれ、自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）や学習障害（ＬＤ）、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）などの子どもの相談が多かった。

大　阪	６回	相談件数	１３４件
名古屋	４回	相談件数	８３件
福　岡	４回	相談件数	４９件

○親と子の療育キャンプ

発達に遅れのある子どもたちが、例年夏休みに愛知県豊田市の自然の中で集団生活を体験する「やまびこキャンプ」を予定通り実施。

		参加者
８月１０日～１２日	愛知県豊田市	８９人

（２）肢体不自由児・者の療育活動

肢体不自由児・者の療育キャンプを、支援団体との共催・協力により、各地で実施した。夏季、冬季の野外活動を通じて、参加者の自立と社会参加を促進し、あわせて交流の輪を広げた。

なお、２月に神戸市六甲山で実施を予定していた「第４５回　雪遊びのつどい」は、ボランティアが集まらず中止された。

			参加者
○第４９回 フレンドシップ・キャンプ			
	９月　２日～　３日	兵庫県豊岡市	４７人
○第４９回 高木記念山中キャンプ			
	８月２２日～２６日	山梨県山中湖村	９２人
○第２９回 雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ			
	（平成３０年）１月　６日～８日	新潟県南魚沼市	１０３人

合　計：２４２人

（３）ＮＨＫハートフォーラム（発達障害）

自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）や学習障害（ＬＤ）、注意欠如・多動症（ＡＤＨＤ）などについて、ＮＨＫの地域放送局や「親の会」、「支援団体」などと共催し、ＮＨＫハートフォーラムを７回開催した。

２９年度は、「発達障害の乳幼児」や「災害時における自閉症・発達障害の人たち」、「大人の自閉スペクトラム症」、「強度の行動障害のある自閉症の人たち」への支援などをテーマに取り上げた。

参加者

６月２５日　山口県宇部市　「行動障害があり、手厚い支援が必要な
自閉症の人たちの生活を考える」　２０５人

７月１７日　和歌山県田辺市「災害時における自閉症・発達障害
の人たちへの支援」　２０９人

９月１８日　大阪市　「発達障害の子どもへの理解と支援
～乳幼児期発達障害のサイン」　３３８人

１０月　９日　仙台市　「大人の自閉スペクトラム症」　１８４人

１２月１７日　富山市　「ともに、輝く。～多様性のある社会へ」　１６３人

(平成３０年)

２月　４日　名古屋市　「実は身近な発達障害
意思決定支援ってなんだろう？」　４５３人

２月１８日　長崎市　「自閉症の人たちの豊な未来のために」　２１５人

合　計：１，７６７人

（４）ＮＨＫハートフォーラム（境界性パーソナリティ障害）

１０代から３０代の若い人のうつや摂食障害などにひそむ「境界性パーソナリティ障害」を、当事者や医師らの話から、本人や家族が共に生きやすくなるにはどうしたらいいか考えた。

参加者

６月１１日　大阪市　「境界性パーソナリティ障害
～回復は大きならせん階段をのぼっていくように」３６８人

（５）ＮＨＫハートフォーラム（摂食障害）

心の過労死とまで言われ、本人だけでなく家族まで苦しめる摂食障害を取り上げ、当事者の体験談と、内科医、臨床心理士の話を通して、回復への道筋を探った。

参加者

３月２４日　名古屋市　「摂食障害　１００人１００色の『回復』」　１５０人

（６）ＮＨＫハートフォーラム（ひきこもり）

２０００年頃から社会問題化し未だに解決に至らず、高年齢化などの新たな問題も生じている「ひきこもり」をテーマに、当事者、専門家、支援者のクロストークから、理解や支援のあり方を考えた。（事業団制作教材「“ひきこもり”からの回復」を使用）

参加者

５月２１日　東京・渋谷区　「ひきこもりからの回復」　２２３人

（７）ＮＨＫハートフォーラム（里親・特別養子縁組）

「特別養子縁組」「里親」の推進をうたった児童福祉法の大幅改正をきっかけにして、それらの当事者、支援者、有識者の話を通して、一人でも多くの子供が家庭で育つためにどのような仕組みを整えていく必要があるのかを考えた。

参加者

８月　５日　大阪市　「考えよう 新しい“家族”の形
～里親・特別養子縁組は今から」　３１０人

（８）フォーラム「がんと生きる」

高齢化の進展によって２人に１人ががんを抱え、３人に１人ががんによって死を迎える。がん医療が進歩する中、完治を目指す治療の一方で、痛みをできるだけ減らしてい

く治療やケアが始まっている。最新の医療情報とともに、本人に寄り添う支援のありようについて、医療従事者や当事者が話し合った。

			参加者
４月２３日	岡山市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	９２７人
６月２５日	鹿児島市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	７９１人
（平成３０年）			
１月２７日	仙台市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	６４９人
２月２５日	大阪市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	７７４人
		合　計：３，１４１人	

＊ＮＨＫの放送
７月　９日　総合　　鹿児島県域（６/２５実施）
（平成３０年）
７月頃　　全国放送 予定（２/２５実施）

（９）ハートカフェ＠渋谷

福祉現場の当事者がいま課題となっているテーマを取り上げ、あるべき社会の在り方を参加者とともに考えた。２６年度からスタートした事業で、気軽に参加できる小さな規模の講演会として講師と参加者が話し合う時間を多く設け、双方向性と交流のある場とした。

「どうしたらいいの？生活保護」		参加者
３月　６日	当事者の声から考えてみよう	３０人

（１０）ハートカフェ＠谷四

２９年度は、大阪市内でハートカフェを３回実施した。

「“赤ちゃん縁組”で命つなぐ　～特別養子縁組のいま」	
６月２５日	３１人
「わかってほしいカサンドラ　～二人で困難を乗り越える法」	
１１月１８日	４３人
「ちゃんと知りたい“性”の話 ～支援の現場から見える発達障害のある人の恋愛事情」	
３月２４日	４４人
	合　計:１４８人

（１１）全国防災キャラバン「わが町のインクルーシブ防災」

どこで起きてもおかしくない地震、津波、台風、集中豪雨などの自然災害。そのたびに失われる高齢者や障害者、子どもたちなどの「災害弱者」の命。フォーラムやワークショップを通じて、誰の命も救う＝誰も取り残さないという「インクルーシブ防災」という意識を普及・啓発するイベントを、東日本大震災や熊本地震の被災地など全国３ケ所で実施した。

６月～１１月　高知県　土佐清水市立清水中学校
インクルーシブ防災の観点から、災害時にどう行動するかを「防災小説」として作成して発表し、それをもとにパネルディスカッションや避難所運営訓練などを実施。

１０月１５日　熊本市　尚絅学園大学
ＮＨＫハートフォーラム「熊本から訴える！ 障害者の命を守るために いまできること」
災害時にも手軽に調理できる「非常食クッキング講座」

参加者
１０３人

（平成３０年）
２月１２日　宮城・石巻市　上釜会館
東日本大震災の体験を語り合い、災害時にどう行動するかをゲーム形式で考えた。
３５人
合　計:１３８人

（１２）障害者スポーツイベント

○パラリンピアンがやってきた！子どもたちとの交流教室

２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、パラリンピック選手が小学校を訪問し、子どもたちと障害者スポーツを楽しみ交流する「パラリンピアンがやってきた」を８回実施した。４年目となる２９年度は、関東以外に石川・金沢市、長野・飯綱町でも実施し、子どもたちに障害への理解を深めてもらった。

		参加者
６月１１日	金沢市金沢プール　「水泳」	１２５人
６月３０日	長野県飯綱町立牟礼西小学校　「ボッチャ」	６４人
７月　６日	千葉市立海浜幕張小学校　「シッティングバレーボール」	１０６人
７月１０日	東京・八丈町立大賀郷小学校　「ブラインドサッカー」	１１５人
７月１１日	東京・八丈町立三根小学校　「ブラインドサッカー」	１８８人
９月１２日	埼玉県三郷市立新和小学校　「ブラインドサッカー」	４２６人
１１月１７日	栃木県上三川町立明治南小学校　「陸上」	１４３人
１２月１４日	千葉県市川市立南行徳小学校　「ゴールボール」	３５０人

合　計：１，５１７人

○２０２０東京パラリンピックを盛り上げよう　～千葉からのメッセージ～

パラリンピック東京大会まであと３年。パラリンピックの認知度を上げ、盛り上げていくにはどうしたらいいか？東京大会では幕張メッセで４競技が開催される千葉に、選手、コーチ、関係者、地元の高校生、大学生が集まり、一緒に考え提言した。

		参加者
９月　２日	千葉市　　千葉ポートアリーナ	１３８人

＊<u>ＮＨＫの放送</u>
９月　１日　総合「ひるまえほっと」
　　２日　総合「首都圏ニュース」
１０月２２日　ＢＳ１　東京オリパラ団
　　「ヤングパワーでオリパラを盛り上げよう」
１０月２５日　総合 ハートネットＴＶ
　　「シリーズ1000日前東京大会へ！
　　より速く！より強く！～2つの新競技の魅力に迫る」

○「ボッチャ東京カップ」への協力

パラリンピック東京大会に向けて普及と選手育成のために誕生した競技大会「ボッチャ東京カップ」に、選手の旅費・交通費を支援した。
来年度以降は活躍選手に事業団賞を贈呈し、パラ・アスリートへの支援を継続していく。

○第５１回スポーツの集い

知的障害のある人のスポーツ競技会。重度の障害者が参加できる全国でも数少ないスポーツ大会で、東京都障害者スポーツ協会と協力して開催した。参加者は、１００ｍ競争、大

玉ころがし、綱引き、リレーなどを行った。

			参加者
９月１３日	東京・渋谷都	東京体育館メインアリーナ	２，５００人

（１３）障害者や福祉への理解を促す事業

○福祉施設の手づくり製品や菓子の販売会

東京のＮＨＫ放送センターで、福祉施設で作られたお菓子などの販売会を６回開催した。この販売会は、放送センターで働く人たちに福祉を身近に感じてもらい、障害のある人たちの就労に少しでも役立つことをねらいに、事業団とＮＨＫ共済会が平成２３年度より共同で実施している。
このうち、１２月の障害者週間には「手づくりの心届けます市」と称して渋谷区９団体の製品を展示販売し、３月には東日本大震災と熊本地震の被災地の福祉施設が作った製品の販売を行った。

○福祉の仕事に就く若い人たちに向けたフォーラム

名古屋で、愛知県社会福祉協議会、ＮＨＫ名古屋放送局、中日新聞社との共催で、福祉を担う若手や中堅職員が本音で語り合える場を設け、福祉現場の現状と魅力を伝えるフォーラムを開催した。

			参加者
９月２４日	名古屋市	「福祉の星フォーラム」	２３０人

（１４）第５２回ＮＨＫ障害福祉賞

障害のある人の体験記録や、福祉関係者、家族などの実践記録を広く社会に伝える「障害福祉賞」には４３５編の応募があった。選考の結果、次の実践記録が入選した。

第１部門：　障害のある本人の部門
第２部門：　障害のある人とともに歩んでいる人の部門
応 募 数　４３５編（第１部門：３５４編、第２部門：８１編）

（入 選 作）

最 優 秀	「ことばを取り戻す」	横井　秀明（愛知県）
優秀（第１部門）	「今日も新しい人生が始まる・・・ 高次脳機能障害からの再起」	田端　浩一（福岡県）
	「雲外蒼天」	姫野　一陽（広島県）
（第２部門）	「私の話を聞いてください ～うつ病の親を持つ子どもより～」	菅野　春華（岩手県）
	「『おぼろの月』 ～ゆうさんと一緒に歌を作る」	高木久美子（愛知県）
矢 野 賞	「補装具といつまでも」	奥津　博士（北海道）
佳　　作	５　編	

入選作品は「第５２回障害福祉賞入選作品集」として広く頒布したほか、朗読による音声版（テープ、デジタル録音）、点字版の入選集を作成し、全国の点字図書館や視覚障害の応募者などに提供した。贈呈式は１２月６日にＮＨＫ放送センターで行った。また入選作品や受賞者の思いを、１２月１９日、２０日の「ハートネットＴＶ」（Ｅテレ）や、１２月７日「ラジオ深夜便」（ラジオ第１）などで紹介した。

（１５）ＮＨＫハート展

■第２２回ハート展

２２回目の「ＮＨＫハート展」には、障害のある人が綴った詩３，６４１編が寄せられ、その中から選ばれた５０編の詩と、その詩をもとに、各界の著名人が制作したアート作品を組み合わせて展示した。

それぞれの想いがこもった５０対の作品は、平成２９年４月２７日から５月６日まで東急百貨店本店で開かれた東京展をはじめ、２９年度中に、静岡市、広島市、八戸市、名古屋市など全国１０か所の巡回展で紹介した。

入場者は４万２，７９１人に上った。放送では作品の紹介や作詩者、作画者のインタビューを、Ｅテレの「ハートネットＴＶ」などで取り上げた。

■巡回展　会場・入場者数　（１０会場）

	会　　期	会　　場	入場者数
東京展	平成２９年 ４月２７日(木) ～ ５月　６日(土)	東急百貨店本店	３，３４２人
札幌展	６月　６日(火) ～ ６月１８日(日)	さっぽろ地下街 オーロラプラザ	１２，２２０人
静岡展	９月１６日(土) ～ １０月　１日(日)	静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ	２，７２３人
徳島展	１０月１１日(水) ～ １０月１９日(木)	ＮＨＫ徳島放送局	３８１人
福岡展	１１月３日(金・祝)～１１月１２日(日)	天神地下街 イベントコーナー	５，８５５人
大分展	１１月１５日(水) ～ １１月２６日(日)	ＮＨＫ大分放送局	２，０５２人
広島展	１２月　１日(金) ～ １２月１２日(火)	ＮＨＫ広島放送局	２，８８１人
神戸展	１２月１４日(木) ～ １２月２４日(日)	ＮＨＫ神戸放送局	３８１人
八戸展	平成３０年 １月１２日(金) ～ １月１８日(木)	八戸ポータルミュージアム 「はっち」	５，０９７人
名古屋	２月　２日(金) ～ ２月１４日(水)	セントラルパーク セントラルギャラリー	７，８５９人

合計　４２，７９１人（１会場平均　４，２７９人）

２．高 齢 者 福 祉 事 業

（１）ＮＨＫハートフォーラム「めざせ！ いきいき長寿」

地域社会の中で共にすこやかに生きる知恵を伝える番組「ハートネットＴＶ めざせ！いきいき長寿」の公開収録（Ｅテレで放送）と、ゲスト山田邦子さんによる高齢者の健康や生き方に役立つ講演を行うイベントを全国６か所で開催した。

		参加者
５月１３日	山梨県大月市	３４１人
６月１７日	鹿児島南さつま市	４９２人
９月　９日	北海道新冠町	２２９人
１０月１４日	岩手県滝沢市	２７７人
１１月２５日	岡山県勝央町	３７０人
（平成３０年）		
１月２０日	高知県安芸市	２７０人
	合　計：１，９７９人	

（２）認知症のフォーラム

事業団が、ＮＨＫや各種団体と協力して多様な認知症のフォーラムを全国７会場で開催し、認知症の当事者やその家族、医療、介護従事者など２，４１３人が参加した。

○ＮＨＫハートフォーラム（認知症）

医療・介護の最新情報や望ましいあり方、地域での支援体制の課題について話し合った。「認知症７００万人　当事者と創る新時代　～世界のトップランナーたちと～」では、前日まで京都で開かれていた「国際アルツハイマー病協会国際会議」に各国から集まった認知症当事者を招き、これからの日本でどのような支援、どのような社会が望まれるかを、専門家とともに考えた。

			参加者
４月３０日	大阪市	「認知症７００万人　当事者と創る新時代 ～世界のトップランナーたちと～」	４３４人
６月１７日	鹿児島市	「しあわせな人生のエンディングのために」	１４６人
（平成３０年）			
１月２７日	三重県津市	「目で見てわかる認知症ケア」	３３６人
２月２５日	大阪市	「認知症の知識と介護の心得・実践編」	２７９人
		合　計：１，１９５人	

○「地域まるごと健康フォーラム　～認知症の人の思いから始める～まちづくり」

認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには何が必要なのか？そのための情報やサポートについて、当事者、医療関係者、地域の福祉担当者らとともに話し合い啓発につとめた。

		参加者
８月　６日	札幌市	４７２人

１１月　５日　和歌山市　　２９６人

合　計：７６８人

＊ＮＨＫの放送

１０月２２日　総合　北海道域（８/６実施）

１２月１６日　総合　和歌山県域（１１/５実施）

○フォーラム認知症新時代　「いきいきと暮らすために～医療・介護・地域の支え合い～」

医療・介護の最新情報と、認知症の人と家族を支援する地域の先進的な取り組みを紹介して当事者、家族、医師、地域の人々が語り合い、地域支援の輪が広がるように努めた。

参加者

１１月２３日　東京都千代田区　　４５０人

＊ＮＨＫの放送

（平成３０年）

２月１０日　Ｅテレ「ＴＶシンポジウム」

○認知症に関するパンフレットの配布

冊子「もの忘れが気になるあなたへ」（１９年度作成・２３万部刷成）と、**冊子「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術」**（２０年度作成・１６万部刷成）、あわせて６，５００部をフォーラムの参加者や希望者に配布した。

（３）認知症にやさしいまち大賞

「認知症７００万人時代」を目前に控え、認知症になっても安心していきいきと暮らしていくためには、医療・介護サービスはもとより当事者の声に依拠した多様な取り組みが不可欠となっている。

こうした取り組みの社会的ムーブメント喚起をねらいに、全国から認知症にやさしい取り組みを募集し、それを専門家、有識者によって選考し表彰した。

応募は５３件。その中から本賞・特別賞併せて７件を表彰した。

表彰式を一般参加者を集めて開催するとともに、受賞した取り組みなどを番組でも紹介した。

＜受賞団体＞

本賞　○若年性認知症デイサービス「けやきの家」セカンドキッチンけやき（埼玉県三芳町）

○「認知症を“見える化”する」東京 町田のＤカフェ　（東京都町田市）

○左京区ＳＯＳネットワーク部会　（京都市）

○若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会「希望の灯り」まちかどライブラリー（大阪府堺市）

○ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト西山さんから始まった地域づくり　（和歌山県御坊市）

特別賞　○大牟田本人交流会「ぼやき・つぶやき・元気になる会」福岡県大牟田市）

○ジュンク堂書店池袋本店　ブックフェア　（東京都豊島区）

参加者

２月１８日　　東京・千代田区　　表彰式　　１００人

＊ＮＨＫの放送

２月６日、７日、１５日

ハートネットＴＶ「シリーズ　認知症に“やさしいまち”第１～３回」

２月１８日　首都圏ニュース（表彰式の模様）

（４）ＮＨＫ銀の雫文芸賞２０１７

高齢社会をどう生きるかをテーマにした小説を一般から募集した。「雫石とみ文芸賞基金」によって２０年間実施してきた「銀の雫文芸賞」の成果を継承し、ＮＨＫの共催を得て、平成２０年度から「ＮＨＫ銀の雫文芸賞」として行っている。

作品の審査には、作家の出久根達郎さん、マンガ家の里中満智子さん、脚本家の竹山洋さん、ＮＨＫドラマ番組部長、文化福祉番組部長があたった。７１３編の応募があり以下の３編が入選した。

入選作品は、「ＮＨＫ銀の雫文芸賞2017作品集」として製本し、広く頒布した。

最優秀　『さくら、ねこ、でんしゃ』　　のらいし　れんふう（ﾌﾟﾛﾌｨｰﾙ非公開）

優　秀　『源三さんの特別な日』　　宮坂　朝子（長野県）

『年賀状』　　牧　康子（東京都）

最優秀の のらいしれんふうさんの作品『さくら、ねこ、でんしゃ』はラジオドラマ化し、９月３０日「ＦＭシアター」で放送した。

（５）ＮＨＫ介護百人一首

日々の介護の様子や思いなどを詠んだ短歌を募集して珠玉の作品を選び、「介護百人一首2018」として作品集にまとめた。１２回目になる２９年度は、１３歳から１０２歳までの幅広い年齢層から１２，２３４首の応募があった。

入選作品は、Ｅテレ「ハートネットＴＶ」で、年間を通じて定期的に紹介されるほか、パネルにして３０年度に各地の放送局などで展示する。

３．東日本大震災の復興を支援する事業

（１）「わかば基金」で東日本大震災被災地の福祉グループを支援

地域福祉を支援する「わかば基金」に設けている「東日本大震災復興支援部門」を通じ、２９年度も引き続き被災地で活動する福祉グループの取り組みや、新たな事業を行うための支援を行った。２２グループから申請があり４グループに支援金を贈った。
支援先は、復興住宅で被災地どうしのコミュニケーションを促す活動をするグループや、障害のある子どもたちが絵画や陶芸などの創作活動をするためのアトリエを運営するグループ、被災した障害者の就労支援に取り組みグループなど。

⇒６.（１）参照

（２）“明日へ”のテーマ曲「花は咲く」の著作権料による義援金など

２９年度もＮＨＫ東日本大震災プロジェクトの復興支援ソング「花は咲く」の楽曲著作権料２，３７４万円を義援金として被災地へおくった。

また、東日本大震災や熊本地震で被災した福祉作業所が作った菓子や名産品の販売会を３月８日に東京の放送センターで行った。

４．福 祉 情 報 の 提 供 事 業

（１）福祉ライブラリー活動

「福祉ライブラリー」はＮＨＫの福祉番組を複製して貸し出すもので、事業団創立以来の基幹事業の一つである。ラインナップも多様で教育や福祉の現場で活用されている。

○福祉ビデオライブラリー

２９年度に新しくライブラリー化した番組は２０。「ハートネットＴＶ」などテレビの福祉番組や、「ＮＨＫスペシャル」など視聴者から反響の大きかった番組、福祉の学習に役立つ番組をＤＶＤに複製した。 また、事業団が制作した福祉ＤＶＤ教材もライブラリーに加えた。
２０年度からパソコンを使っていつでも予約ができる**オンライン予約システム**を導入し、現在、その登録者は８，４７４人で、昨年度より７３７人増加した。電話申し込みを含めた申し込み全体に対するオンライン予約の割合は６３％である。
年間の貸出利用は４，１６４本。おもな利用者は、福祉関係の大学・専門学校や、福祉の現場で働く人、障害児の親や障害者本人、介護に携わっている家族、ボランティア団体などである。
利用した人が特に多かったソフトは、事業団制作の福祉ＤＶＤ「“ひきこもり”からの回復」（２７８本）。次に多かったのは「発達障害の子どもたち～“自立”をめざして～」（１６０本）、「うつ病」（１３２本）、「大人の自閉症スペクトラム」（１２２本)、「認知症ケア」（７７人）で、いずれも事業団制作のＤＶＤ３巻シリーズだった。
また「認知症」「介護」「発達障害」を取り上げたＮＨＫ番組のライブラリーの利用も多くあった。

２９年度　複製番組数	ライブラリー保有番組数	年間利用数
２０番組	５３５番組	４，１６４本(枚)

◎これまでの利用数累計：１９万２，８４３本

○聴覚障害者向け字幕ビデオライブラリー

ＮＨＫの字幕放送の拡充にあわせ、聴覚障害者向けサービスとして平成１５年度から行っている。２９年度は、「ハートネットＴＶ リハビリ介護を生きる　おひとりさまの自分介護（１）要介護になっても一人で暮らす」、「認知症キャンペーン　認知症介護 家族の悩みに答えます」、「すくすく子育て 発達障害？と思ったとき」など５本を字幕化した。ライブラリーは通算９５番組で、全国５９の聴覚障害者関係施設と当事業団で貸し出しを行っている。

○視覚障害者のための音声ライブラリー

文芸作品や古典の名作を朗読したＮＨＫの番組を複製して、全国４７か所の委託施設で貸し出しを行っている。各地の点字図書館でデジタル図書での貸し出しが一般的になっているため、平成２０年度からソフト作成をテープから**デジタル録音のＤＡＩＳＹ**に切り替えている。

２９年度はＮＨＫの『ラジオ文芸館』から「煮こごり」(井上　荒野)、「時計の傷」(伊集院　静)など４作品を、『朗読』から「江戸川乱歩　パノラマ島奇談」、『古典講読』から「むかし語りへのいざない～宇治拾遺物語」を複製した。

また、視覚障害者団体からの要望を受けて、新たに文化庁 芸術祭の優秀賞を受賞したラジオ・ドラマ「ふたりの娘」「ほかの誰でもないアヤコ」（いずれもＮＨＫの『ＦＭシアター』で放送）と、銀の雫文芸賞２０１６の最優秀作品「散歩道」のラジオドラマ３本も複製した。

貸し出し利用は年間４，４００本あまりで、「ラジオ文芸館」などの現代の作品に人気があった。

２９年度　複 製 作品数	年　間　利　用　本　数
４番組　９作品	４，４６８本(枚)

◎これまでの利用数累計：　１９８万２，０７０本

（２）福祉ＤＶＤ教材「優しい認知症ケア ユマニチュード」の制作

２０２５年には７００万人にのぼると予測される認知症。介護家族が認知症の人と向き合う際の最大の悩みが暴言や徘徊などの行動。これらを和らげるプロのケア技術をだれでも実践でき

るよう体系化したのが、フランス生まれの認知症ケア「ユマニチュード」。
今後在宅での認知症介護が課題になる機をとらえて、家庭でも実践できるケア技術「ユマニチュード」を、考案者のイヴ・ジネスト氏や専門家の解説と映像で分かりやすく伝えるＤＶＤ教材として制作し、認知症に優しい共生社会の実現に貢献する。

福祉ＤＶＤ教材（テキストつき）は３枚組で７００セット制作し、認知症疾患医療センターに指定された全国の病院や、精神保健福祉センター、「認知症の人と家族の会」などの希望する所に無料で配布し、役立ててもらう。
また事業団の「福祉ビデオライブラリー」でも貸し出しを行い、より多くの人に活用してもらう。

（各巻の内容）

第１巻　「ユマニチュードって何だろう　～入門編～」
第２巻　「ユマニチュードをやってみよう　～実技編～」
第３巻　「私のユマニチュード　～家族の実技編～」

監修：イヴ・ジネスト（ユマニチュード考案者）、本田　美和子（国立病院機構 東京医療センター 総合内科医長）

なお、本事業はＪＫＡの補助金を得て実施した。

（３）「認知症」「思春期のこころの病」「がん患者のための体と心の緩和ケア」の冊子を希望者へ配布

○「もの忘れが気になるあなたへ」

（監修：小阪憲司　横浜市立大学名誉教授）
認知症はどんな病気か、治療法や予防法、相談窓口などを分かりやすくまとめたもので、発行数は２３万部となった。

○「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術～」

（監修：須貝佑一　認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）
認知症の介護のポイントを症状別に解説したもので、発行数は１６万部。
２９年度は、認知症の両冊子あわせて６，５００部をフォーラムの参加者や希望者に無料で配布した。送料は利用者負担。

○「思春期のこころの病～“悩み”と“病”の見分け方～」

（監修：青木省三　川崎医科大学精神科学教室教授）
思春期特有の精神疾患の見分け方と対応について啓発する冊子で１１万部作成。
２７年度に在庫がなくなったが、ホームページで見られるようにし、個人のほか、学校や勉強会をするＮＰＯなどにも利用してもらっている。

○「がん患者のための体と心の緩和ケア
～痛みと悩みをやわらげて自分らしい療養生活を送るために～」
（監修：的場元弘　青森県立中央病院 緩和医療科 部長）
がん患者の体の痛みや心の苦しみを和らげる「緩和ケア」について、病院や相談機関の情報を含めて解説したもので４万部を作成。２９年度は希望者に２５５部を配布した。

５．チャリティー事業

年間を通して数々のチャリティーを行った。２９年度のチャリティーイベントは以下の通り。
「※」印は物品などの贈呈をした催しで、詳細は６.（４）に記載

（１）ＮＨＫ番組公開チャリティー

催物名	期　日	会　場	売上高　等 （単位：千円）
歌謡チャリティーコンサート （2回）　※	4月14日 10月13日	郡山市民文化センター　大ホール （福島県郡山市） コラニー文化ﾎｰﾙ （甲府市）	（売上高） ２０，２２０
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜東京公演＞ （16回　8日×２回）	5月3日～6日 11月2日～5日	ＮＨＫホール	（寄付額） ６，０４２
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜地方公演＞　（28回）	7月8日 ～ 30年3月3日	群馬県桐生市ほか 全国１１か所	（寄付額） ９，７３３ ＜30年度入金予定＞
いないいないばあ！ あつまれ！ワンワンわんだーらんど　（26回）	4月9日 ～ 30年3月11日	神奈川県秦野市ほか 全国１０か所	（寄付額） ８，１９４ ＜30年度入金予定＞

（２）事業団企画チャリティー

催し物名	期日	会場	売上高　等 （単位：千円）
第50回日本陶芸倶楽部会員チャリティー作品発表展	5月24日～29日	日本橋三越本店	（寄付額） ２，０６６
ＮＨＫ厚生文化チャリティー展　（2回）	11月8日～14日 12月13日～19日	名古屋 三越栄店 津 松菱	（売上高） ９，８８５
障害者のための女流義太夫	12月16日	紀尾井小ホール	（寄付額）

チャリティー演奏会			１４４
Ｎ響「第９」チャリティーコンサート	12月26日	ＮＨＫホール	（売上高） ２５，７１２
第51回ＮＨＫ福祉大相撲 ※	30年2月 10日	両国　国技館	（売上高） ２２，９６６

６．そ の 他 の 支 援 事 業

（１）第２９回 地域福祉を支援する「わかば基金」

あすの福祉の芽を育てる「わかば基金」は、福祉の分野で地道に活動を続けているグループを支援するために設けられたもので、今回で２９回目を迎えた。
２４年度から、東日本大震災の被災地で活動している福祉グループに支援金を贈る**「東日本大震災復興支援部門」**を設けており、２９年度は２２のグループから申請があった。
また、**「支援金部門」**には２５３グループ、**「リサイクルパソコン部門」**には１０８グループから申し込みがあった。
「リサイクルパソコン部門」は、ＮＨＫやＮＨＫ関連団体から不用になったパソコンを寄贈してもらい、新しいアプリケーションソフトを入れた上で必要としている福祉団体に贈呈するもので、ＮＨＫグループの社会貢献活動となっている。

選考委員会を経て、全国１８グループに総額９４６万円の支援金、２０グループに５０台のパソコンを贈った。また、被災地には４グループに２３６万円の支援金を贈ることができた。支援総額は、パソコン費用を含め１，３６４万円。
なお、初回からの贈呈件数は７０９に上る。

＜支援金部門 支援先＞＊１８グループ　＊支援金総額：９４６万円

北海道千歳市	点訳絵本の会	絵本、展示用透明シート　他	２０万円
北海道本別町	NPO法人ほんべつつつじの園	自動名刺カッター	２５万円
東京都豊島区	NPO法人楽の会リーラ	ウェブサイト制作費	３５万円
神奈川県藤沢市	NPO法人laule'a	タブレットPC	１２万円
新潟市	新津点訳奉仕会まどかグループ	点字プリンター	８４万円
新潟市	NPO法人らぴすらずり	スクーター	３４万円
長野県飯山市	飯山市認知症キャラバン・メイト連絡会	プロジェクター	１４万円
岐阜県中津川市	NPO法人おたがいさま	車両	１００万円
富山市	NPO法人コーポラティブハウス木の実	ソーラーフードドライヤー	２５万円
富山県立山町	NPO法人知的障害者のくらしを考える会	チェーンソー	８４万円

京都市	NPO法人セカンドハーベスト京都	米用冷蔵庫	８３万円
大阪市	NPO法人Homedoor	アルコールチェッカー	７６万円
和歌山県田辺市	NPO法人ころん	担架、救急用品	６２万円
神戸市	Link	AED訓練用マネキン	１４万円
福岡県行橋市	NPO法人フリースクール風の里	ユニットハウス	７３万円
熊本市	化学物質過敏症患者会 くまもとCSの会	VOC測定器	５６万円
熊本県菊池市	NPO法人夢のかけら舎	エアコン	５２万円
鹿児島市	NPO法人ファーマーズボーダー	業務用シンク	９７万円

＜リサイクルパソコン部門 支援先＞＊２０グループ　＊リサイクルパソコン贈呈：５０台

北海道室蘭市	パソコンボランティアプラザ室蘭	３台
青森県十和田市	NPO法人農楽郷ここ・カラダ	３台
宮城県柴田町	柴田町点訳サークル『ほたる』	３台
福島市	NPO法人福島就労支援センター	２台
栃木県足利市	音訳グループねいろ	２台
千葉県成田市	コスモスの会	３台
東京都北区	NPO法人Asia Commons亜洲市民之道	３台
東京都渋谷区	NPO法人PIECES	３台
新潟市	失語症友の会 新潟つくしの会	１台
静岡市	NPO法人地域生活支援サービス まあぶる	１台
静岡県浜松市	ひきこもりサポートセンターこだま	３台
滋賀県守山市	認定NPO法人四つ葉のクローバー	２台
京都市	NPO法人ゆに	３台
大阪府吹田市	点訳グループ「あい」	１台
兵庫県三田市	要約筆記ボランティア「三田サマリー」	３台
福岡市	テキスト訳グループ「あいフレンド」	３台
福岡市	朗読の会セブン	３台
佐賀県基山町	朗読ボランティアグループ虹の会	２台

長崎県長与町	パソコン要約筆記“pcながさき”		３台
熊本県天草市	NPO法人ワークショップひなたぼっこ		３台

＜東日本大震災復興支援部門 支援先＞＊４グループ　＊支援金総額：２３６万円

宮城県石巻市	NPO石巻広域クリエイティブアートの会	ペンギンアート工房 さをり織機	４１万円
仙台市	仙台かえりびなの会	ミシン	１９万円
仙台市	NPO法人２０世紀アーカイブ仙台	プロジェクター	７７万円
福島県郡山市	NPO法人しんせい	車いす対応花壇	９９万円

（２）ＮＨＫ歳末たすけあい・ＮＨＫ海外たすけあい

「平成２９年度ＮＨＫ歳末たすけあい・ＮＨＫ海外たすけあい」を、ＮＨＫ、中央共同募金会、日本赤十字社と共催で１２月１日～２５日の間実施した。

「歳末たすけあい」の義援金は、中央共同募金会を通じて被災した福祉施設への支援、障害のある人や、援助や介護を必要とするひとり暮らしのお年寄り、援助を必要とする子どもたち、長期療養生活をしている人や生活が困難な世帯などに配分される。

「海外たすけあい」では、日本赤十字社が赤十字国際機関と協力し、紛争や自然災害に苦しむ人たちのために使われる。

受付件数・金額（全国集計）

	ＮＨＫ歳末たすけあい		ＮＨＫ海外たすけあい	
平成28年度	4万1,332件	5億3,099万3,105円	8万1,331件	7億447万6,254円

（３）「災害たすけあい」受け付けの実施

事業団ではＮＨＫ、日本赤十字社、共同募金会とともに、大規模な災害が起こった際に、その都度「災害たすけあい」を実施している。２９年度は、秋田県の大雨災害と、三重県の台風災害の際に実施した。

	期　間	日数	件数	金　額
秋田県大雨災害救援金	平成29年7月27日 ～8月31日	36日	1,454件	7,001万9,555円
台風２１号三重県災害義援金	平成29年10月31日 ～平成30年1月31日	93日	736件	3,133万1,055円

（４）物品などの寄贈

○ＮＨＫ福祉大相撲による「福祉相撲号」の寄贈

３０年２月１０日に開催した「第５１回ＮＨＫ福祉大相撲」（入場者４，１８６人）の純益により福祉車両「福祉相撲号」５台を購入し、これに協力団体からの寄贈１台と合わせて合計６台を障害のある人たちの療育活動や、お年寄りのデイケアなどの活動を行っている施設・団体に寄贈した。

「ＮＨＫ福祉大相撲」の模様は、２月１８日　総合テレビで放送した。

＜贈呈先＞

社会福祉法人	福音会 ワークセンター麦	（福島県須賀川市）
社会福祉法人	河内四つ葉会 よつば荘	（宇都宮市）
社会福祉法人	健和会 デイサービスセンター パークレジデンス	（三重県東員町）
社会福祉法人	誠光福祉会 特別養護老人ホーム えんゆうの里	（滋賀県草津市）
社会福祉法人	十字会 障害者支援施設 博愛ヴィレッジ	（徳島県みよし町）
社会福祉法人	共栄福祉会 福祉型障害児入所施設 若久緑園	（福岡市）

○「歌謡チャリティーコンサート」による寄贈

■４月１４日、福島県郡山市で開催した「歌謡チャリティーコンサート」（入場者１，７９３人）の純益で「車いす付き介護浴槽」を購入し、福島県内３か所の高齢者福祉施設に贈呈した。

コンサートは５月２日、総合テレビで放送した。

＜贈呈先＞

社会福祉法人	愛星福祉会　特別養護老人ホーム　星ケ丘ホーム	（郡山市）
社会福祉法人	陽光会　特別養護老人ホーム　陽光園	（福島市）
社会福祉法人	光美会　デイサービスセンター　人生の里	（いわき市）

■１０月１３日、甲府市で開催した「歌謡チャリティーコンサート」（入場者１，４７２人）の純益で、山梨県はじめ全国の障害者スポーツ団体・施設に障害者スポーツ用具を贈呈した。

コンサートは１１月２８日、総合テレビで放送。

（５）催物への招待

事業団の催し物の開催時に、視覚障害の人や知的障害のある人など４７７人を招待した。

			招待者
１２月２６日（平成３０年）	Ｎ響「第９」チャリティーコンサート	ＮＨＫホール	１４０人
２月１０日	ＮＨＫ福祉大相撲	両国　国技館	３３７人
		合　計：	４７７人

７．広 報 活 動

事業団の活動を周知するために事業内容を紹介した印刷物をイベント会場で配布し、福祉活動への理解と協力を求めた。またホームページやフェイスブックでは、催し物の周知や活動報告などを分かりやすく伝え、ネット時代にふさわしい広報活動に努めた。

（１）広報物の作成・配布

○ＮＨＫ厚生文化事業団年報「障害者、高齢者にやさしい社会をめざして」を発行して、事業団の福祉活動への理解促進を図った。

○事業団の業務を紹介したパンフレット「あなたのやさしさを必要な人にとどけます」を作成して、イベント会場などで配布した。また会場では、イベントのテーマにそった冊子を配るほか、事業団作成の福祉ＤＶＤ教材や福祉ビデオライブラリーの利用案内などのチラシも配布した。

○ＮＨＫの放送やニュースで事業団の催しを紹介した。また、外部メディアへの情報提供を積極的に行い、新聞・雑誌などで事業の予定や活動内容が紹介された。

（２）広報活動の強化にホームページの拡充

○事業団の活動をより多くの人に知ってもらい、活用してもらうため、「最近の活動内容」や、「募集事業の案内」、「福祉ビデオライブラリーの新着情報」などをきめ細かく提供するとともに、ビジュアルでわかりやすい画面構成に努めた。

掲載している主な内容は、
・事業団の「催し物の予定」や「実施事業の報告」
・事業団が制作した冊子の内容。「認知症」や「がん緩和ケア」など
・「ＮＨＫ障害福祉賞」や「ＮＨＫ銀の雫文芸賞」の入選作品の紹介
・「わかば基金」で支援した福祉団体の活動をリポートする「わかばなかま」
・「福祉ビデオライブラリー」の目録や予約システム
・寄付について
など多岐にわたる。

○ホームページの利用者からメールで寄せられたさまざまな問い合わせには、各担当者が即応するよう努めた。

８．リスクマネジメントとコンプライアンス

（１）中期経営計画の策定

２０２０年までの中期経営計画を策定し、この中でＮＨＫとの連携の強化、パラリンピック東京大会と事業団創立６０周年に向けた事業の展開、働き方改革、向こう３年間の収支見通しなどを示した。

（２）改正社会福祉法への対応

２９年４月から全面施行された同法の趣旨に沿って、①経営組織のガバナンスの強化
②業務運営の透明性の向上　③財務規律の強化に取り組んだ。
評議員会を設置し、理事・理事長に対する牽制機能を発揮させることにしたほか、計算書類、現況報告書、役員報酬等の支給基準を公表するとともに内部留保の明確化に努めた。

（３）業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「IT への対応」という６つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応(内部統制)が実施されていることを評価した。

評価の結果、平成３０年３月３１日時点における事業団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

（４）内部監査の実施

近畿・中部・九州の各支局を対象に総務部の監査を実施し、個人情報の扱いについても点検した。また、ＮＨＫ内部監査室調査を受け、ＮＨＫと連携してガバナンスの強化に取り組んだ。

（５）各種研修の実施

ＮＨＫ放送研修センターの「事例に学ぶコンプライアンス研修」への参加や、外部講師を招いて事業団独自で開催した「情報セキュリティ研修」の受講などを通して、全役職員でリスクマネジメントの強化に努めた。

９．後援、協賛した事業

福祉、教育、医療団体などが実施する研修、啓発事業、また美術、スポーツ団体などが福祉目的で開催するチャリティー事業に積極的に協力し、本部・支局合わせて１５５件の事業を後援、協賛した。

○福祉関連の催し（１２０件）

「自閉症啓発デー２０１７」「第45回日本車椅子バスケットボール選手権大会」
「高校生ボランティアアワード」「福祉の就職総合フェア２０１７ in OSAKA」
「第５７回愛知県身体障害者福祉大会」
などを後援、協賛した。

○チャリティー催し物（３５件）

「国展」「春陽展」「東光展」「二科展」「三多摩総合舞踊発表会」「チアリーディング日本選手権大会」「KEIRINグランプリ２０１７」「手工芸作品展」「手づくりフェア in 九州」などのチャリティー催しを後援し、その益金から事業団へ寄付をいただいた。

１０．寄 付 金

当事業団への寄付金には二種類ある。個人や団体からのご寄付である一般寄付金と、当団が主催、後援、協賛したチャリティー事業からのご寄付であるチャリティー寄付金である。

２９年度は、

一般寄付金が	２４７件	６，１５４万７，２４９円
チャリティー寄付金が	５４件	５，９２９万６，７１３円
寄付金総額は、	３０１件	１億２，０８４万３，９６２円

に上った。

11. 賛 助 会 員 ・ 維 持 会 員 等

賛助会員は一般法人に広く協力を求め、本年度は１団体１口の新規入会があった。しかし業績不振等により、減額１団体１口、退会７団体７口の申し出もあり、合わせて１３３団体から１，９８０万円の支援を受けた。
個人からの継続寄付者を含む維持会員等については、ＮＨＫおよびＮＨＫ関連団体役職員、ＮＨＫ旧友会員など ６，００２人の方々の協力を得て、その額は１，０２４万４，０００円に達した。

〔特別賛助会員〕

・第一生命保険	・日立製作所	・富士通
・みずほ銀行	・ＮＨＫエンタープライズ	・ＮＨＫメディアテクノロジー

〔賛助会員〕

・愛知県農業協同組合中央会	・アットホーム	・アーチェリープロダクション
・アーティストハウスピラミッド	・葵設備工事	・アフラック
・池上通信機	・石川近鉄タクシー	・岩谷産業
・岩手ホテルアンドリゾート	・栄光舎	・エクサート松崎
・荏原冷熱システム	・遠藤波津子美容室	・大阪ガス
・岡谷鋼機	・オフィスプロペラ	・勝亦電機製作所
・加藤電気工業所	・川崎重工業	・川嶋印刷
・北日本モーター	・木下サーカス	・近物レックス
・近鉄タクシー	・ＫＤＤＩ	・江綿
・国際自動車	・コメリ	・近藤産興
・さくら組	・サンセイ	・シーズコーポレーション
・ジーズ・コーポレーション	・ジェイアール東海高島屋	・ＪＴＳ
・島精機製作所	・ジャパネットホールディングス	・小学館
・白川プロ	・新日本空調大阪支店	・スギヤス
・スタービーイング	・スマートコンセプト	・住友電気工業
・住江織物	・全国大陶器市振興組合	・全国陶器祭振興会
・セントラルスポーツ	・全日本空輸	・ゼンリン
・総合システム管理	・ダイキン工業	・大和自動車交通
・大和証券	・宝塚舞台	・タカラベルモント
・津幡技研工業	・ツマガリ	・ツムラ
・つむら工芸	・帝産キャブ名古屋	・帝都自動車交通
・電気興業	・東京海上日動火災保険	・東芝インフラシステムズ
・東新紙業	・トヨタ自動車	・豊田スタジアム
・名古屋三越	・西川	・日産自動車
・日産自動車販売	・日本医師会	・日本音楽事業者協会

・日本音楽著作権協会
・日本ゴルフツアー機構
・ネイチャー
・花岡無線電機
・阪急電鉄
・日立国際電気
・福建社
・丸徳産業
・三菱ＵＦＪ信託銀行
・モリタホールディングス
・ランドマークプロダクツ
・ＮＨＫアート
・ＮＨＫ営業サービス
・NHKグローバルメディアサービス
・ＮＨＫビジネスクリエイト
・ＮＨＫ文化センター
・日本国際放送
・放送衛星システム
・日本ガイシ
・日本たばこ産業
・野村證券
・バリュープランニング
・ＰＬ東京健康管理センター
・日の丸自動車
・ホテルオークラ東京
・ミス・パリ
・明電舎
・森平舞台機構
・リンレイ
・ＮＨＫアイテック
・ＮＨＫエデュケーショナル
・ＮＨＫサービスセンター
・ＮＨＫプラネット
・ＮＨＫ放送研修センター
・日本放送協会学園
・日本交通
・日本電気
・バーニングプロダクション
・阪急産業
・ヒサヤ大黒堂
・福家書店
・丸一鋼管
・三井住友信託銀行
・メディア２１
・ヨコシネディーアイエー
・ＷＯＷＯＷ
・ＮＨＫインターナショナル
・NHKエンジニアリングシステム
・ＮＨＫ出版
・ＮＨＫプロモーション
・共栄サービス
・日本放送協会共済会

（Ｈ３０．３．３１現在）

１２．役員

（１）役員体制　（平成30年3月31日現在）

理事長	鈴木　賢一	
常務理事	大島　勉	
理事（非常勤）	荒木　利幸	（日本放送協会制作局長第2制作センター長）
理事（非常勤）	板野　裕爾	（株式会社ＮＨＫエンタープライズ代表取締役社長）
理事（非常勤）	上野　一彦	（東京学芸大学名誉教授）
理事（非常勤）	大美　慶昌	（日本放送協会視聴者総局事業センター長）
理事（非常勤）	小山内　美江子	（シナリオライター）
理事（非常勤）	伍藤　忠春	（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会評議員）
理事（非常勤）	中村　吉夫	（社会福祉法人聴力障害者情報文化センター理事長）
理事（非常勤）	橋本　正明	（社会福祉法人至誠学舎立川理事長）
監事（非常勤）	松尾　正	（株式会社ＮＨＫアイテック取締役）
監事（非常勤）	中島　謙次	（社会福祉法人中央共同募金会常務理事）

（２）理事および監事に支払った報酬等の額

当該事業年度における当事業団の理事および監事に対する報酬等の内容は、以下のとおり。

対象者	人　数	報酬の額
理　事	１１人	２，９３５万円
監　事	２人	３万円

注）１．上記人数には、当期中に退任した非常勤理事１名が含まれる。
　　２．理事及び監事のうち、ＮＨＫ及びＮＨＫ関連団体の役職員としての立場を有する者に対しては、報酬を支給していない。